

令和5（2023）年度卒業生 学習成果アンケート結果

本学現代子ども学科では、卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に定める「使命感」「総合的な子ども理解」「コミュニケーション・課題解決」「ICT活用」といった資質・能力を、「学習成果アンケート」によって把握してきた。

以下、令和4（2022）年4月に入学し、令和6（2024）年3月に卒業した令和5（2023）年度卒業生の学習成果を中心に述べる。

「学習成果アンケート」は学内情報ポータルサイト〔KCN（Keiai Campus Navigator）〕を活用し、スマートフォンを用いて回答させている。選択肢の「よくできている」「できている」を統合し「あてはまる」群、「あまりできていない」「できていない」を統合し「あてはまらない」群とした。表中の人数と％は、「あてはまる」群の数値を示す。

「使命感」の下位カテゴリーとして「社会的責任」「自己管理」「生涯学習」を設けた。「総合的な子ども理解」には「保育に関する知識」「保育技術」「保育実技」を、「コミュニケーション・課題解決」には、「コミュニケーション・スキル」「チームワーク」「リーダーシップ」「課題解決力」を、それぞれ下位カテゴリーとして設けた。さらに「ICT活用」も設けた。

「総合的な子ども理解」「ICT活用」の項目については、1年生に回答を求めるには高度すぎる項目もあるが、学習成果の評価を継時的（入学時・進級時・卒業時の3回）に実施し、達成状況の推移を把握すること、あるいは、学生に自己評価する際に卒業までの達成目標として意識させること等をねらいとし、あえて実施している。

令和5（2023）年度卒業生の学習成果アンケート結果について、「使命感」と「コミュニケーション・課題解決」について述べる。令和4（2022）年度卒業生と同様、入学時から「使命感」の「社会的責任」「自己管理」、及び「コミュニケーション・課題解決」の「コミュニケーション・スキル」「チームワーク」は評価が高い。教育者・保育者を目指すという明確な意思と自覚を持っており、思いやりを持って他者と協働することができることと自己評価していることがわかる。これは、本学のアドミッション・ポリシー①「教育者・保育者を目指す明確な意思をもち、生活面・健康面での自己管理ができ、学び続けることのできる人」や、同③「対人関係能力に優れ、他者と協働し思いやりをもって子どもたちと関わることのできる人」と合致している。

一方で、「生涯学習」の項目である「資格を意欲的に取得している（認定絵本土、認定ベビーシッターなど）」については、入学時は52%だが、卒業時には約90%となり、在学中にキャリア形成に対する意欲が高まった結果とあると思われる。

また、「保育に関する知識」「保育技術」「保育実技」については、令和4(2022)年度卒業生と同様、入学時からある程度高く、本学のアドミッション・ポリシー②「日頃

より教育・保育に関する事柄に広く関心をもち、子どもの成長・発達について理解を深めようとする態度をもっている人」と合致している。「保育に関する知識」と「保育技術」については、卒業時に大きく能力を伸ばしており、授業や実習を通して子どもの発達段階や指針・要領に関する理解が深まり、保育者に必要な知識・技術が修得できているものとする。また「保育実技」の「子どもの発達に即した良質の絵本を選ぶ」「子どもが楽しめるような絵本の読み聞かせができる」が卒業時に約95%となっているが、「認定絵本土」取得をめざす学生が高い意識で取り組んでいる成果であると考えられる。

「コミュニケーション・課題解決」の「リーダーシップ」項目である「人前に立ち、皆の意見をまとめられる」や「課題解決力」の項目である「自己の考えを論理的にわかりやすく他者に伝えられる」については、令和4(2022)年度卒業生同様、入学時ともに約50%と低いですが、それぞれ確実に能力を伸ばしている。令和2(2020)年度から、全授業科目において、学習成果の一つである「コミュニケーション・課題解決」と各授業科目の内容との関連についてルーブリックを作成してシラバスに示し、より明確に評価できるようにしている。グループ・ディスカッションにおいてグループの意見をまとめ発表したり、テーマに沿って自分の主張を論理的にまとめ、他者にわかりやすく伝えるプレゼンテーションを行ったりする機会を増やし、教員がより具体的なフィードバックをしていくことで、「コミュニケーション・課題解決」の資質・能力育成を目指してきた。この資質・能力は、令和3(2021)年度入学生カリキュラムから開設された、初年次教育としての「敬愛スタートアップゼミ」(1年前期)での学びによっても育成されるものとする。さらに行事や委員会活動、クラス活動での協働により育まれるのではないかと考える。

アクティブ・ラーニングの推進についても、これまで教職員対象のFD・SD研修において複数回取り上げる等、強化している。

ICT活用については、「Word(文書作成ソフト)を使える」「Excel(表計算ソフト)を使える」「PowerPoint(プレゼンテーションソフト)を使える」「パソコンや映像機器を活用したプレゼンテーションができる」の項目のすべてで、入学時より卒業時の方がかなり高くなっており、基礎科目「情報処理」(1年通年)や専門科目「教育方法」(2年半期)等による教育の効果が見られる。また、コロナ禍でのオンデマンド授業の実施を通して、Google Driveなどのクラウド・サービスや学内情報ポータルサイト

〔KCN(Keiai Campus Navigator)〕の利用に習熟し、各スキルが高まったものと思われる。今後もいっそうのICT技術活用の可能性を目指す。

項目		あてはまる (%)		
		入学時	卒業時	
使命感	社会的責任	1. 保育者を志す者としての自覚がある	88.8	94.3
		2. 保育に対する高い志や情熱を持っている	98.0	91.8
		3. 子どもの最善の利益を意識している	92.8	96.7
	自己管理	4. 場面に応じて身だしなみを整えられる	97.4	99.2
		5. 場面に応じた言葉遣いができる	94.1	97.5
		6. 健康管理ができる	94.1	94.3
		7. 提出期限や集合時刻などのルールを守る	93.4	93.4
		8. 指示されなくても自分で考えて行動できる	82.2	86.9
		9. 自己の行動を振り返り改善できる	92.8	91.0
		10. 計画性を持って行動できる	77.0	80.3
	生涯学習	11. 読書をして幅広い知識や教養を得ている	53.9	60.7
		12. 資格を意欲的に取得している（認定絵本士、認定ベビーシッターなど）	52.0	89.3
		13. 自己の課題の解決に必要な能力やスキルを習得するように努めている	84.2	91.0
総合的な子ども理解	保育に関する知識	1. 子どもの年齢に応じた心身の発達段階について理解している	63.2	91.0
		2. 子どもを取り囲む環境を整えることの重要性について理解している	86.8	98.4
		3. 子どもが基本的な生活習慣を身につけることの重要性を理解している	90.1	98.4
		4. 保育に関するニュースや時事問題に関心をもっている	83.6	88.5
		5. 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領等の内容を把握している	46.7	73.8
		6. 子どもの発達の連続性を意識し、保育所・幼稚園・認定こども園と小学校との連携の重要性を理解している	62.5	95.9
		7. 発達障害等の特性の理解、及びそれらを援助する上での重要性を理解している	70.4	95.9
	保育技術	8. 子ども一人一人の性格や能力、興味・関心を理解しようとしている	89.5	98.4
		9. 一人一人の子どもを見ながら常に全体にも目を配ることができる	69.1	86.9
		10. 子どもにわかりやすいような話し方ができる	71.1	91.8
		11. 子どもの表情などから感情をとらえ、子どもの気持ちを大切に援助ができる	77.0	94.3
		12. 子どもがルールを守れるような援助ができる	71.7	91.0
		13. 子どもの気持ちを汲んでけんか等に対応できる	63.2	83.6
		14. 子どもの興味・関心を踏まえた遊びを考えられる	67.8	90.2
	保育実技	15. 子どもが手遊び等を楽しめるような援助ができる	57.9	94.3
		16. ピアノなどの楽器を使い、子どもが楽しんで歌えるような援助ができる	40.1	77.9
		17. 子どもの発達に即した良質の絵本を選べる	48.7	94.3
		18. 子どもが楽しめるような絵本の読み聞かせができる	48.7	95.9
		19. 子どものやってみたいという気持ちを大切に制作活動の援助ができる	63.2	96.7
		20. 子どもが楽しんで運動遊びが行えるような援助ができる	69.1	86.9
コミュニケーション・課題解決	コミュニケーション	1. 自ら進んで明るく挨拶ができる	98.0	96.7
		2. 他者の意見を受け入れられる	98.7	100.0
		3. 他者の立場に立って物事を考えられる	96.7	95.9
		4. 他者と良好な人間関係を築くことができる	96.1	95.1
	ワークショップ	5. 組織や団体の一員として自分の役割を果たすなど、自覚を持って行動できる	96.1	96.7
		6. 報告・連絡・相談ができる	96.7	95.1
	リーダー	7. 目的の達成のために積極的に意見を出せる	78.3	86.9
		8. 人前に立ち、皆の意見をまとめられる	49.3	76.2
		9. 広い視野をもち、臨機応変に対応できる	80.3	87.7
	課題解決力	10. 反省や経験を生かせる	90.1	96.7
		11. 物事の問題点や課題を見つけられる	83.6	91.8
		12. 自己の考えを論理的にわかりやすく他者に伝えられる	55.9	80.3
		13. 多様な意見を統合してアイデアを生み出せる	63.2	86.1
ICT活用	1. Word（文書作成ソフト）を使える	39.5	86.9	
	2. Excel（表計算ソフト）を使える	30.3	65.6	
	3. PowerPoint（プレゼンテーションソフト）を使える	36.2	88.5	
	4. SNSなどをモラルに則って効果的に活用できる	80.9	96.7	
	5. 「情報リテラシー」の意味を理解している	59.2	84.4	
	6. パソコンや映像機器を活用したプレゼンテーションができる	32.2	86.1	